

# 実践英語

基礎教育センター・教授  
福島 富士男

## 1. 2008年度前期実践英語の概要

ご承知のように、実践英語は日本人教員クラスとNSE教員クラスを毎週1コマずつ履修する必修授業である。入学時の英語テストによって学生を学力別にA, B, Cの3レベルに分け、各クラス25人以下に編成されている。統一教科書による授業を行い、学期末に統一試験を課すことで、できるだけ客観的な成績評価を目指している。今年で4年目を迎える英語教育プログラムではある。

統一教科書は統一授業を実施する点で重要な役割を担っている。それによって統一試験によるより客観的な成績評価が可能になる。

しかし、1種類の教科書では、たとえどれほど詳細な授業ガイドラインを設定できたとしても、1学年1600名を超えるさまざまな学力レベルの学生の期待に十分に應えるのはむずかしい。2006年度では「教科書が易しすぎる」、「もっと教科書を難しくして欲しい」という声が多く、2007年度になると「難しすぎる」という声が多かった。また、授業に当たる教師の側から見れば統一教科書を「束縛」のように感じられる面もなくはない。

今年度は、日本人教員クラス用では *College Reading 3* (Houghton Mifflin) を用いた。アカデミックなトピック・論理・語彙を学習できる教科書である。新生は日本語でも使ったことのない種類の知的語彙に、英語で接することになり、当初は戸惑うことが予想された。NSE教員クラスでは、首都大スタッフが協力して作成した *Berlitz English for University* を採用した。

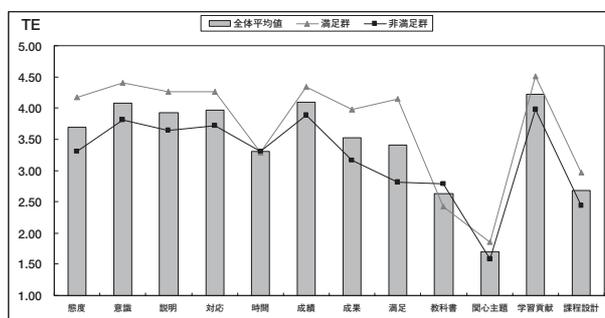
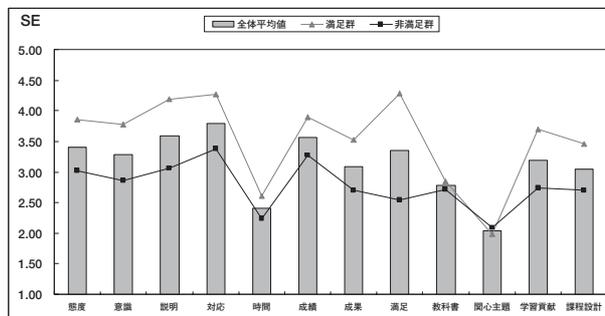
なお、今年度前期に関しては、昨年度のように「はしかなによる休校」という不測の事態も起こらず、ほぼ無事に前期末統一試験・追試験まで終了することができた。

## 2. 前期授業評価について

日本人教員クラスの授業評価の対象は、実践英語 I a であり、NSE教員クラスについては、1・2年生全員にたいしてベルリッツが独自に行っている。前者は授業時に、後者は7月30日の統一試験時に行われた。以下二つのアンケートを紹介しながら、前期授業を振り返ってみたい。

### a. 日本人教員クラス

上が学生、下が教員のアンケートの集計結果である。



昨年度同様、SE・TEとも満足群がと非満足群を上回っている。学生も教師も授業に「満足」している割合はかなり高い。しかしながら、「教科書」「関心主題」の項をみると、満足群と非満足群が逆転している部分もある。今年度の教科書の主眼である知的なトピック・語彙の学習に関して、1年生の戸惑が反映しているように思われる。また、教師の教科書への不満はかなり大きい。これについては後述する。

教科書については学生の数値が2.78 (昨年2.77) であるのに (この場合数値が高いほうが「教科書が易しかった」という評価である)、教員は2.63 (昨年2.63) であるから、教科書の難易度は昨年と同じくかなりむずかしいものとなっている。学生の回答数をみると、易しすぎた39 (昨年24)、易しかった159 (139)、適切だった852 (870)、難しかった418 (362) 名、難しすぎた84 (86) である。しかしながら、学生が大学生活の中で知的な語彙に慣れていくにつれ、今年度の教科書を難しいと感じる度合いは減るものと思われる。

### b. NSE教員クラスについて

ベルリッツが今年度行ったアンケートは印象に傾きがち。学生による教員評価の部分がなく、昨年度よりも

簡素化され、授業の要点を衝いたものとなっている。  
Q1：教科書のレベル、Q2：ロールプレイ、プレゼン、リスニング、ディスカッションのうちどれが楽しかったか、Q3：ペアワーク、グループワーク、単独ワークのどれが役に立ったか、Q4：教師の指示は分かりやすいか、Q5：授業はやりがいのあるものだったか。

#### 1年生

Q1：教科書のレベル

むずかしすぎる4%、ちょうどよい79%、やさしすぎる16%

Q2：ロールプレイ、プレゼン、リスニング、ディスカッション/ディベートのうちどれが楽しかったか

ロールプレイ43%、プレゼン20%、リスニング21%、ディスカッション/ディベート16%

Q3：ペアワーク、グループワーク、単独ワークのどれが役に立ったか

ペアワーク：大変役に立った44%、役に立った49%、あまり役に立たなかった6%

グループワーク：大変役に立った38%、役に立った51%、あまり役に立たなかった10%

単独ワーク：大変役に立った19%、役に立った58%、あまり役に立たなかった22%

Q4：教師の指示は分かりやすかったか

分かりやすい73%、ときどきむずかしい25%、むずかしい2%

Q5：授業はやりがいのあるものだったか。

大変やりがいがある7%、やりがいがある79%、あまりやりがいがない14%

#### 2年生

Q1：教科書のレベル

むずかしすぎる5%、ちょうどよい82%、やさしすぎる13%

Q2：ロールプレイ、プレゼン、リスニング、ディスカッション/ディベートのうちどれが楽しかったか

ロールプレイ34%、プレゼン18%、リスニング31%、ディスカッション/ディベート16%

Q3：ペアワーク、グループワーク、単独ワークのどれが役に立ったか

ペアワーク：大変役に立った36%、役に立った55%、

あまり役に立たなかった9%

グループワーク：大変役に立った32%、役に立った54%、あまり役に立たなかった13%

単独ワーク：大変役に立った16%、役に立った64%、あまり役に立たなかった20%

Q4：教師の指示は分かりやすかったか

分かりやすい62%、ときどきむずかしい31%、むずかしい7%

Q5：授業はやりがいのあるものだったか。

大変やりがいがある7%、やりがいがある79%、あまりやりがいがない14%

昨年度のアンケートとはいくらか異なって、より具体的な授業内容についての質問なので、学生がNSE授業の意義（面白さ）を理解し、それを評価しているかがよく分かる。なお、1年生比べて、2年生の反応が鈍いのは、一般的な傾向である。

#### 4. 課題

今回のアンケートでかなりはっきりと出た点は、統一教科書に対しては、学生より教師の不満が大きいの点である。たしかに、統一授業そのものが教師の自由を制限する授業形態となっている。クラスによっては、全体の進捗との関係で、学生の理解度を確認できないまま、先へと進まなければならない場合もある。

これまで、実践英語では統一授業によって教師の自由度を制限することで、授業の質を一定に保ち、成績評価の客観性を確保することを目指してきた。しかしながら、そろそろ成績評価の客観性を別の形で担保する方策を考えるべきときが来ているのかもしれない。

本号の別のところでも指摘したが、「統一授業・統一教科書・統一試験」には多くの危険性が潜んでいる。そのことに気づかずにこれまで実施し、幸いなことにこれといった大きな事故も起きなかった。しかし、これはまったくの僥倖であることを肝に銘ずべきである。

今回、教師の側からはっきりと表明された統一教科書への不満を、実践英語改善のための重要なきっかけとして受け止めるべきであろう。